

医療現場でよく使われている用語集

よく使われている病名の略語一覧

分類	略語	病名(呼び名)	分類	略語	病名(呼び名)
脳神経系	apoplexy	脳卒中(アポ)	泌尿器系	CKD	慢性腎臓病
	CSDH	慢性硬膜下血腫(マンコウ)		UTI	尿路感染症
	hemiplegia	片麻痺(ヘミ)		BPH	前立腺肥大症
	MCI	多発性脳梗塞		DYS	神経因性膀胱
	OCI	脳梗塞		AKI	急性腎不全
	SAH	クモ膜下出血(ザア)		CRF	慢性腎不全
	TIA	一過性脳虚血発作		HD	血液透析
循環器系	AAA	腹部大動脈瘤(トリプルエー)	悪性新生物	HCC	肝癌
	AF	心房粗動		HT	脳腫瘍
	Af	心房細動		K	癌(キャンサー・ツモール・クレブス)
	AP	狭心症(アンギーナ)		LK	肺癌
	ASO	閉塞性動脈硬化症		meta	転移(メタ)
	CHF	うっ血性心不全		MK	胃癌
	CHP(HCM)	心不全		MMK	乳癌(マンマK)
	HT	高血圧(ハイパーテンション)		OK	食道癌
	MI	心筋梗塞		PK	膵癌
	PVC /VPC	心室性期外収縮		polyp	有茎性の腫瘍(ポリープ)
	SSS	洞不全症候群		primary	原発巣(プライマリー)
呼吸器系	COPD	慢性閉塞性肺疾患	RK	直腸癌	
	CPA	心肺停止状態	RCC	腎臓癌	
	CPE	慢性肺気腫	ZK	舌癌	
	DIC	播種性血管内凝固痕症候群(ディック)	難病系	ALS	筋委縮性側索硬化症(アミトロ)
	SB	気管支炎		MS	多発性硬化症
	TAA	胸部大動脈瘤	骨・関節系	amputation	四肢切断(アンブタ)
	TB	結核(テーバー)		OA	変形性関節症(オーエー)
消化器系	AP	虫垂炎(アッペ)		RA	慢性関節リウマチ
	DG	十二指腸潰瘍		RF	リウマチ熱
	GERD	胃食道逆流症		Fx	骨折
	HAV	A型肝炎ウイルス	Dx	脱臼	
	HBV	B型肝炎ウイルス	精神系	DLB	レビー小体型認知症
	HCV	C型肝炎ウイルス		dementia	認知症(ディメンツ)
	hyperventilation	過換気症候群(ハイパーベンチレーション)	その他	アーリー・ステージ	初期
	ireus	腸閉塞(イレウス)		エンド・ステージ	末期
	LC	肝硬変		carrier	保菌者(キャリア)
	MG	胃潰瘍		ステージ	段階
SAS	睡眠時無呼吸症候群	ターミナル・ステージ		終末期	
内分泌・代謝系	DM	糖尿病	Re	再発	

カルテや看護記録等に良く記載されている症状等

分類	用語	解説
一般状態	VS・TPR(バイタルサイン) BT・KT (体温) BP (血圧) R (呼吸) P (脈拍) HR (心拍数) 意識	生命の徴候。脈拍・心拍・呼吸・体温・血圧・意識などが含まれる。適切な治療や看護法を決定して実施する上で必要な基礎データとなる。 体内の生化学反応によって発生する熱と体外へ放出される熱との関係で決まる体の温度。正常(成人)は腋下体温で36～37℃ 心臓から送り出された血液が血管の中を通る時、血管にかかる圧力のこと。正常値(成人)最高血圧130mmHg未満、最低血圧85mmHg 息を吸ったり吐いたりすること。正常呼吸(成人)1分間12～20回 心臓が規則的に収縮して血液が押し出されるたびに体表近くを走る動脈に伝わる周期的な拍動。正常呼吸(成人)1分間60～90程度。 心臓が血液を送り出すために収集する回数のこと。通常1分間の回数をいう。正常値60～90 頭がはっきりしていて、自分自身や外界のことがわかっている状態。
脳外科系	意識清明(レベルクリア) 意識混濁 明識困難 傾眠 嗜眠 昏睡(コーマ) 痙攣 見当識障がい 高次脳機能障害 失行 失語 失認 半側空間無視 遂行機能障害 瞳孔不同(アノソコリー) 半盲 血管攣縮(スパズム)	意識障がいがない状態。 意識の清明度の低下で、注意・記憶・見当識が障がいされた状態。意識障害の病像の一つ。 注意が散漫となり、自発性がなくなって了解がやや悪い。 周囲からの刺激があれば覚醒するが、すぐうとうとして、意識が混濁する状態。 はっきりとさめないが、強い刺激に反応する。会話はできない状態。 刺激には全く反応せず、瞳孔反射や腱反射も消失した状態。 ひきつけのように、一時的または急な脳の過剰興奮によって起こる不随意的な発作性運動現象。 場所・時間・おかれた状況等がわからなくなること。 失行・失語・失認・半側空間無視等、学習や記憶、言語活動のように情報の蓄積と分析、統御に基づいた行動に関する大脳の機能の障がい。 失調、不随意運動、筋緊張異常などの運動障がいや感覚障がいがなく、行うべき動作または行為を十分了解しているのにできない状態。 聴覚障がいや運動障がい、および一般的な知能・精神障がいがないのに、脳の病巣により、言語の理解や表出が障がいされたもの。 以前から熟知しているはずの物や人を認識する能力が、全面的あるいは部分的に喪失してしまうこと。 損傷した大脳の部位と反対側の刺激に反応せず、注視した空間の半側に注意を向けたりできない認識障がいの症状。 高次脳機能障がいの一つ。自発的に物事を始めることができない。 病気等により、左右の瞳孔の大きさが異なる状態。正常な人にみられることもある。 視野の半分が水平または垂直方向に欠けて見えなくなる状態。 血管の緊張が亢進して、痙攣性の収縮が起こり、臓器や組織の血流が低下し虚血症状を起こす。
血液・循環器系	血液(ブラッド) 血塊(コアグラ) 潜血 溶血	全身の組織や臓器の中に網の目のように張り巡らされている血管の中を流れる赤い液体。 血液が固まったもの 尿や便に微量の血液が混じっている状態のこと。 赤血球の膜が破れて、中のヘモグロビンが流出する現象。

分類	用語	解説
血液・循環器系	血栓	血管内で、血液成分が固まって、血管内を閉塞すること。
	塞栓	血管からはがれた血栓の一部や血管外から侵入した異物(空気・脂肪等)が血管を閉塞させること。
	除脈	通常50/分未満の心拍数のこと。
	頻脈(タヒ)	心拍数が1分間に100以上の状態。
	結滞・結代	心臓の期外収縮により、脈拍のリズムが乱れ、脈拍測定した際に脈拍が途切れる(または脈が飛ぶ)こと。
	発作(アタック)	疾病特有の症状または激しい症状が急激に起こること。
	うっ血	静脈の血液循環が障がいされ、血流が停滞すること。
	静脈瘤(バリックス)	静脈の一部が何らかの要因で薄くなり、その血管が膨らむことで発症する。
	急性循環不全(ショック)	急に全身の末梢循環が障がいされること。生命を維持するには血圧が低すぎる、命に関わる状態。
	貧血(アネミー)	一定量の血液の酸素運搬物質の濃度が低下した状態で、微熱・易疲労感・頭痛・動悸・息切れが起こる。
	チアノーゼ	肺もしくは心臓の機能不全による循環障害により、唇・まぶた・手足の爪等、皮膚が紫藍色または暗青色になること。
	虚血	局所性貧血。組織や臓器への動脈血の流入や酸素供給が減少あるいは途絶えた状態。
	壊死(ネクローシス)	病気や傷により、細胞や組織が致命的な損傷を受けて、局所的に死ぬこと。
	壊疽・脱疽	血液供給が無くなり、組織が壊死した所に細菌感染し、腐敗してくること。
	DIC(播種性血管内凝固症候群)	重篤な疾患が引き金となり、全身の血管内で血液凝固反応が起こり血栓ができるため、臓器不全や出血下血を引き起こす。
	脱水	体内の水分が喪失される時に電解質も喪失し、口渇や発熱、痙攣、昏睡などの症状が起こる。
	浮腫(エデーマ)	皮下に組織間液が貯留すること。
	ヘルニア	臓器の一部または全部が隙間や裂け目を通じて異常な位置に脱出すること。(脳・椎間板・ソケイ部等に発生する)
	発熱(フィーバー)	病気が原因で、体温が平常より上昇した場合(37℃以上)をいう。
悪寒	さむけ。感染初期や過激な発熱初期によくみられる不快なさむけ。	
戦慄(シバリング)	さむけにふるえが伴うもの。	
呼吸器系	咳嗽	咳。肺・気管支・気管から異物・刺激物・分泌物を排除できない場合の防御反応のこと。
	血痰	痰に少量の血が混じっているもの。
	喀血	咳とともに気道または肺から吐き出される鮮紅血の大量出血のこと。
	吃逆	しゃっくり。横隔膜の痙攣によって生ずる症状。
	呻吟	苦しそうにうなること。
	喘鳴	気管支ぜんそく等で、呼吸時に「ゼーゼー」「ヒューヒュー」というような状態。
	嘎声	しわがれ声。声帯に病変があるため、音声が異常な状態。
	ファイトイング	患者の呼吸と人工呼吸器の補助や強制換気が合わないこと。

分類	用語	解説
呼吸器系	バッキング 胸水	気管カニューレ等の刺激や人工呼吸器との呼吸のリズムが合わず、患者の咳嗽反射を誘発して、咳込んだ状態。 胸膜腔に貯留した液。通常は少量が胸膜の表面をうるおしているが、胸膜炎・肺がん・肝硬変などの際には増加する。
消化器系	腹水 筋性防御(デフェンス) グル音 吐血 下血 血便	腹膜の炎症や肝臓・心臓・腎臓の疾患などにより腹腔内にたまった液体。 腹腔内になんらかの急性炎症が起こると、反射的にその部分の腹壁が固くなること。 消化している時に、腸が動いて発生する音。 食道・胃・十二指腸などから出血した時に、その血液を吐くこと。 疾患により消化管内に出た血液が肛門から出ること。 血液の混じった大便
泌尿器系	失禁 尿閉 無尿 乏尿 膿尿 血尿 頻尿 多尿	小便・大便・涙等を自分の意思によらず排泄してしまうこと。 膀胱内にたまった尿を上手く排出できない状態。 一日の尿量が100ml以下で膀胱に尿がたまらない状態。 一日尿量が400ml以下で、排泄する尿が著しく少ない状態。 白血球のまじった尿。尿路に炎症のある場合にみられる。 腎臓・膀胱・尿道のいずれかの部位からの出血により、尿に血液が混じって濁ること。 排尿回数の異常な増加をきたす疾患または状態。 一日の尿量が3000mlを超えるもの。多量の液体摂取や神経興奮・萎縮腎・糖尿病・尿崩症などが原因。
神経系	パーキンソニズム 仮面用顔貌 不随意運動 振戦 疼痛(ペイン)	振戦、筋強剛、動作緩慢、姿勢反射などのパーキンソン病類似の症候を呈する病態を指す。 パーキンソン症候群の3大症候の一つ。他に運動緩慢及び無動症がある。無表情となり瞬きも少なく、一点を見つめるような顔つきが特徴。 意思に基づかない不合理な運動のこと。 意思とは無関係に、筋肉の収縮、弛緩が繰り返された場合に起こる、リズムカルな振動運動である。 ずきずき痛むこと。うずき。
内分泌・代謝系	ムーンフェイス	満月様顔貌。ステロイド使用による副作用で、体重増加とともに顔がまん丸になる症状。
骨・関節系	回旋 外旋 内旋 外転 内転 伸展 屈曲	回す動作のこと。 体の外側にひねる動作(股関節等)。 体の内側にひねる動作(股関節等)。 四肢を体正中線より遠ざけるような、冠状面内の動きを指す。 四肢を体正中線に近づくように内方に向かう関節動作 関節を伸ばすこと。 関節を曲げること。

分類	用語	解説
骨・関節系	後屈	体を後ろに曲げること。
	前屈	体を前に曲げること。
	側屈	体を横に曲げること。
	背屈	手首の運動で手背側に曲げること。
	掌屈	手首の運動で、手掌側に曲げること。
	ROM(ロム)	身体各関節が傷害などが起きないで生理的に運動することができる範囲(角度)のこと。
	良肢位	関節拘縮をきたし、その位置で動かなくなっても日常生活にもっとも支障が少ない手足の位置。
	拘縮	関節動かさないために、次第に関節の動く範囲が狭くなった状態のこと。
	内反尖足	足関節、すなわち足首がピンと伸びて、足の底が内側を向いた麻痺のある足の特有の拘縮の状態
	強直	かたくこわばること。
	固縮・強剛	身体筋肉が持続的に強くこわばること。
	破行	片足をひきずるようにして歩くこと。
	分回し歩行	麻痺側の足を前へふり出す時に、つま先が床面にあたらなしように、外側に大回りさせる歩行。
	タンデム歩行	つぎあし歩行。一側のつま先に対側の踵を接触させながら床面に引いた一直線上を歩行する。応用歩行の一つ。
精神系	幻覚	実際に感覚的刺激や対象がないのに、あるように知覚すること。
	せん妄	意識混濁に加えて、幻覚や錯覚がみられるような状態。我を忘れて意味不明なことを言い出すこと。
	妄想	根拠もなくあれこれと想像すること。事実でないことや根拠の薄いことを強固に確信しており、どんな手段を以てしても訂正できない状態。
	抑うつ	気分が沈んで晴れないこと。
	焦燥	いらいらする、あるいはむしゃくしゃする精神状態。
皮膚・創傷系	熱傷(バーン)	やけど
	挫創	物にぶついたりして皮下組織と皮膚の表面に傷口がある場合の怪我のこと。
	挫傷	物にぶついたりして、皮膚の表面に傷口がなく内部組織が身障する怪我のこと。
	擦過傷	すりきず。かすり傷。
	漿液	一般的に薄い黄色透明な種々の体液のこと。
	膿(アイテル)	うみ。炎症部が化膿して生じる黄白色または黄緑色の不透明な粘液。
	滲出	液体が外ににじみでること。
	漏出性	もれて出ること。
	ポケット	寝たきり等で筋肉量が減り骨が突出した所の皮膚、皮下組織・筋肉が体重で圧迫され血流障がいが起こり、創傷がポケット状となること。
	デブリードマン	創傷治癒の障がいとなる壊死組織や損傷組織を除去すること。

よく行われている検査用語

検査用語	解説
RBC（赤血球）	貧血や多血症の診断に用いられる。基準値(成人)男性400万～540万/ μ l 女性370万～490万/ μ l
WBC（白血球）	炎症性疾患や血液疾患の診断に用いられる。基準値(成人)4700～8700/ μ l
Hb（ヘモグロビン濃度・ハーベ）	貧血や多血症の診断に用いられる。基準値(成人)男性13.0～17.0g/dl 女性11.0～15.0g/dl
Ht（ヘマトクリット）	貧血や多血症の診断に用いられる。基準値(成人)男性40～50% 女性35～45%
CRP（C反応性蛋白）	体内に急性炎症や感染、組織の損傷がある時に、血清中に増えるたんぱく質の一つで、体内の炎症の度合いを見る。
BS・GLU(血糖・グルコース)	血液中のブドウ糖のこと。食前食後を通して70～140mg/dlの範囲で保たれている。
TP（総蛋白）	血液中の蛋白の量で、栄養状態や腎障害・肝障害を見る。正常値6.7～8.3g/dl
GOT	肝臓に多く含まれる酵素で、組織に障がいがあると値が上昇し、肝障害を見る。正常値10～40IU/l
GPT	肝臓に多く含まれる酵素で、組織に障がいがあると値が上昇し、肝障害を見る。正常値5～45IU/l
AL-P	骨や肝臓などに多く含まれる酵素で、胆のう・胆管の障がいでも上昇する。正常値100～325IU/l
γ -GTP	肝臓などに分布する酵素で、胆汁うっ滞・アルコール・薬物などの影響で上昇する。正常値男80以下IU/l 女30以下IU/l
LDH	心筋や肝臓・骨格筋・赤血球等に多く含まれる酵素で、心筋障がいや肝障がいなどが起こると上昇する。正常値120～240IU/l
ZZT	慢性化燃・肝硬変・慢性炎症や膠原病等で値が上昇する。正常値2.0～12.0U
T-Bil（総ビリルビン）	老化した赤血球の破壊により、その色素がビリルビンとなり、一部は肝臓を経て胆汁中に排泄される。肝・胆道系疾患等で上昇する。正常値1.1以下mg/dl
AMY(アミラーゼ)	膵臓や唾液腺から分泌される酵素で、膵炎や耳下腺炎などの際にも上昇する。正常値 血清55～175mu/ml 尿30～950mu/ml
BUN(尿素窒素)	腎臓の機能が低下すると排泄が十分されず、値が上昇する。値が高値になると、尿毒症を引き起こす。正常値8～23mg/dl
CHE（クレアチニン）	筋肉中のエネルギー源となる物質がクレアチニンに変わって腎臓から排泄される。腎障害があると高値となる。正常値 男0.8～1.3mg/dl女2.4～5.8mg/dl
UA(尿酸)	腎臓の排泄機能の低下や尿酸生成の促進によって、値が高値になり痛風等を引き起こす。正常値 男3.8～7.5mg/dl 女2.4～5.8mg/dl
T-cho（総コレステロール）	過剰になれば、血管壁に付着して血管が狭くなったり、弾力性を失うなど、動脈硬化の原因となる。正常値140～199mg/dl
TG（中性脂肪）	過剰になれば、皮下や肝臓に蓄積して、肥満や脂肪肝または動脈硬化も促進される。正常値30～149mg/dl
HDL-C（HDLコレステロール）	コレステロールを末梢血管から肝臓に転送する働き(善玉コレステロール)があり、40以下は動脈硬化を疑う。正常値 男40～70mg/dl 女45～75mg/dl
FBS（空腹時血糖）	糖代謝の検査。一般的には朝の空腹時血糖値をもって判定される。正常値70～109mg/dl
BS（随時または食後血糖）	血糖値は食事などにより変動するが、変動幅は一定範囲に止まり、食後であっても140mg/dlは超えない。正常値 70～139mg/dl
Hb A1c（ヘモグロビンA1c）	およそ4～8週間の血糖のコントロール状態を反映するため、食事に影響されない。糖代謝の診断に有効な検査。正常値4.5～5.8%
Tages（ターゲス）	血糖の日内変動。朝食前・朝食後2時間・昼食前・昼食後2時間・夕食前・夕食後2時間・夜中の血糖値を想定して、その変動を調べる検査。
OGTT（糖不可試験）	空腹時の血糖値を調べた後、75gのブドウ糖水溶液を飲み、その後2時間で血糖値がどの程度変化したかを調べて、糖尿病の判定に利用する血液検査。
CA19-9	消化器がんの腫瘍マーカーとして広く用いられている。特にすい臓がんの診断に役立つ。基準値 37U/ml以下
CEA	腫瘍マーカーの一つ。癌細胞が増殖している組織内からつくられるタンパクの一種で、再発や転移の早期発見等、治療効果の特定に有効。基準値5.0/ng/ml

検査用語	解説
U-TP (尿蛋白)	血液中に含まれる蛋白が尿中にでてきたもの。陽性が続くようなら、ネフローゼ等の腎疾患の可能性がある。正常(-)
U-Glu (尿糖)	一定量以上の増加により、(+) 以上の場合は糖尿病が疑われ。正常値(-)
URO (ウロビリノーゲン)	血液中のビリルビンという色素が腸内細菌に還元されたのもで、正常(±)強陽性(2+)以上は肝障害を疑う。
RBC (尿潜血)	尿中に含まれる血液を検出するもの、腎臓・膀胱・尿道の炎症や結石・腫瘍・前立腺炎等で陽性となる。正常(-)
PaO2 (動脈血酸素分圧)	動脈血ガス分析を使用した動脈血酸素飽和濃度(動脈血中の酸素と結合しているヘモグロビンの割合のこと)を測定した値。
SaO2・SAT (サチュレーション)	指先などにクリップのように挟むパルスオキシメーターを使用して、動脈血中の酸素と結合しているヘモグロビンの割合を測定した値。
in,out (水分出入)	INは点滴・薬・飲水・食事量等体内に入るもの OUTは出血量・尿量・汗等の対外に排泄されるもの。
BMI (ボディマス指数)	肥満度を表す指標。ふつう(BMI:18.5以上25未満) 肥満(BMI:30以上)やせ(BM:18.5未満) 計算式BMI=体重Kg÷(身長m)2 適性体重=(身長m)2×22
BMD (骨密度)	カルシウムやマグネシウムなどのミネラルの量が骨にどれくらい含まれているか想定する検査。正常80%以上。
BW (体重)	定期的に実施して、食事療法がうまくいっているかの判断に役立つ。
ECG (心電図・モニター)	心臓が血液を送りだすために拍動する時、心筋が収縮して微細な電気を発生する。その電気の強弱を波形をグラフ化して心臓の病気を発見する。
ホルターECG (携帯型長時間心電図)	小型の携帯型心電計で記録した日常生活での長時間連続記録心電図。一過性の不整脈や心筋虚血の診断に有効である。
CT (コンピューター断層撮影)	放射線などを利用して物体をスキャンしコンピューター処理することで、骨や臓器を比較的短時間で画像化するための機器。
MRI (核磁気共鳴画像法)	強い磁石と電波を使って体の内部の状態を検査する方法。縦・横・輪切り等様々な角度からの鮮明な断層写真を得ることができる。
MRA (磁気共鳴血管撮影)	MRIの一種。「CT+造影剤」の代わりに脳の状況と脳血管の健康状況を調べて、脳動脈硬化の進み具合や血管内部の狭窄等を調べる。
PET (陽電子放出断層撮影)	癌細胞がブドウ糖を取り込む性質を利用して、放射性物質を組み込んだブドウ糖を体内に注射し画像化することで癌細胞を発見する。
アンギオグラフィー (血管造影)	カテーテルを主にそけい部の動脈から肝臓や腎臓、脳の血管まで挿入し、造影剤を使用して血流や腫瘍の分布、血管の狭窄や閉塞を知るための検査。
ツベルクリン反応	結核菌に対する人体のアレルギー反応を利用して結核菌感染の有無を調べる検査。
BX (バイオプシー・生検)	生体組織診断。生体の組織や臓器の一部を採取して、病気を診断する検査のこと。
X-P (エクスレイ・X線撮影)	エックス線照射装置とフィルムの間に体を置き、焼き付けて画像化する検査。
P (プレーン)	単純。そのまま撮影すること。
CE (エンハンス)	造影剤を使用した検査。
マンモグラフィー(単純乳房X線撮影)	乳腺・乳房専用のX線撮影で、専用のX線装置で、乳房を平らに圧迫して撮影する検査。
パッチテスト(皮膚アレルギー試験)	接触性皮膚炎や薬疹の原因物質を確かめるため、疑いのある物質を背中や腕に貼布して反応を調べる方法。
エコー (超音波検査)	超音波を対象物に当てて、その反響を映像化する画像検査法。
BFS(ブロンコ・気管支内視鏡検査)	気管や気管支の中に気管支鏡を挿入して、内腔を観察したり、組織や細胞、分泌物などの検体を採取する検査。
EGD (食道胃十二指腸内視鏡検査)	口内から、食道、胃、十二指腸まで管を挿入し、潰瘍その他の疾患または異常の有無を診断する。必要に応じて、病変の一部を採取して組織検査を行う。
TCS (全大腸内視鏡検査)	肛門より、管を盲腸まで挿入して、ガン・ポリープ・潰瘍・びらん等大腸に起こりうる病気がないか診断する。必要に応じて病変の一部を採取して組織検査を行う。

よく聞く治療や医療処置用語

治療や処置の用語	解説
PEG（ペグ・胃瘻）	経口摂取が困難な患者に対し、体外から胃に繋がる穴をあけてチューブを留置し、栄養剤や水分を直接投与する栄養補給方法。
バンパー	胃瘻カテーテルの先端にあるドーム型部分。胃壁側でカテーテルを固定する。
鼻腔栄養	経口摂取ができない、または不十分な患者の鼻腔から消化器管内に管を挿入し、流動食や栄養を直接注入する方法。
マーゲンゾンデ・マーゲンチューブ	鼻から胃内に挿入するチューブで、シリコンが多い。
IVH（中心静脈栄養）	大静脈（通常は鎖骨下静脈）にカテーテルを挿入し、高カロリー輸液を行う栄養法。
ヘパロック・ヘパリンロック	点滴を中断する際、先端部分の血液が逆流して凝固するので、カテーテルの閉塞を阻止するためにカテーテル内に抗凝固剤を充填しておくこと。
気切（気管切開）	気管とその上部の皮膚を切開して、その部分から気管にカニューレを挿入する気道確保の方法。
カニューレ	体液の排出や薬液の注入、気管切開をした際の空気の送排などのために体内に挿入するパイプ状の医療器具。
カフ	血圧計のベルト部分（マンシェット）チューブやカテーテルの先端についている風船の部分。
サクション（吸引）	痰がからんで吐き出せない場合や気管に物をつまらせてしまった場合などに、口や鼻からチューブを挿入し、器械で痰などを吸引する。
サクションチューブ（吸引チューブ）	痰を吸引する時に使用するチューブ。
ベンチレーター（人工呼吸器）	自発呼吸のできない人の換気を補助し、肺に空気を送りこむ機械。
ウイニング（離脱）	人工呼吸器から自発呼吸へと移行できるよう、人工呼吸器を段階的に外す操作。
HOT（ホット・在宅酸素療法）	酸素が不足しがちな患者が、自宅など病院以外の場所で酸素供給装置を使用して酸素を吸入する治療法。
ネブライザー	吸入器のひとつ。霧状にした薬液を口や鼻から吸入して、蓄膿症や喘息など呼吸器系疾患の治療に用いられる。
タッピング	排痰法のひとつで、指先をそろえ、手のひらを軽くぼませてカップ状にし、胸を軽くたたく。
体位ドレナージ	痰が多く出ると、感染症や息苦しさの原因となるため、痰を出すために、体の角度を傾けたり、胸や背中を軽くたたいたりすることで、排液を促す方法。
ドレナージ	体内に溜まった膿や胸水などの体液を体外へ排出させること。
ミルキング	ドレーンの中に溜まった血液や排液を、手で揉んだり専用のローラー等を使ったりして、詰まらないように流す作業のこと。
クランプ	医療用クリップ。「固定する」「締める」などの意味を持つ動詞として用いられることもある。
導尿	膀胱にたまった尿を外尿道口から尿道を通して、カテーテルを膀胱内へ挿入して、体外へ排泄する方法。
バルーンカテーテル	カテーテルの一種で、先端が風船状になっており、血管などの内部で膨らませることで、治療や処置を行うためのもの。
ウロストミー（人工膀胱）	尿を排泄するため、手術によって腹壁に設けられた排泄口のこと。
HD（人工透析・血液透析療法）	腎不全に陥った患者が尿毒症になるのを防止するために、血液を体外に導き出し、水分や老廃物、電解質を除去し再び体内に戻すという治療法。
CAPD（持続携帯式腹膜透析）	腹膜を浸透膜として利用する透析方法。浸透圧を高めた透析液を腹膜内に入れ、尿素をはじめとした老廃物や水分をこしとるというもの。
シャント	血液が本来通べき血管とは別のルートを流れる状態で、血液透析では、静脈と動脈が肺循環系や毛細血管を介さず直接つながれている箇所を指す。
ストーマ（人工肛門）	腸管を腹部の表面に直接出して、排泄口にしたもの。
GE（ジーイー）	グリセリンが含まれる浣腸液。肛門や直腸を刺激することにより、排便を促す。
PM（ペースメーカー）	心臓に電気刺激を加えることにより、心臓のリズムを発生される医療機器。
DDD（ユニバーサルペーシング）	ポケット型体外式ペースメーカーのペーシング様式の1つ。心房の拍動の多い・少ないに合わせて心房と心室の動きをできるだけ一緒にしようとする方法

治療や処置の用語	解説
どうちゆう（動注療法）	動脈から直接がんの組織に濃度の濃い抗がん剤を注入する治療。
リザーバー・CVポート	血管内に薬剤を注入するための医療機器。皮膚の下に埋め込んで、カテーテルを留置することで、反復して注入できる。
インフュージョン	注入すること。
エンボリ・エンボリゼーション	塞栓術。動脈瘤や腫瘍のある血管にいろいろなものを詰める治療
ケモ・ケモセラピー	主に抗がん剤による化学療法
ポリペク・ポリペクトミー	内視鏡ポリープ切除術
OP（オペ）	手術のこと。
CABG（大動脈冠動脈バイパス術）	虚血性心疾患の治療のため、血流量の回復をはかる手術のこと。
TIPS（ティップス）	肝内門脈肝静脈短絡術
ステント	血管や気管、消化管等を、管腔の内側から広げる医療機器。狭窄した血管や気管の拡張に用いられる。
SC（皮下注射）	皮下組織の中に薬液を注入する注射方法。
IV・DIV（静脈注射）	血管内に薬液を入れる注射。結構を介して速やかに全身に行きわたる。
IM（筋肉注射）	筋肉中に薬液を注入すること。皮下注射より、吸収が早い。
ドリップチャンバー	点滴筒。輸液セットに組み込まれている透明な筒で、点滴数を観察する目的で作られている。
ソックン	側管。三方活栓や注入用の栓から注入すること。
CPR（心肺蘇生法）	心肺が停止した人お呼吸や循環機能を維持する目的で、心臓マッサージ及び人工呼吸を行うこと。
BLS（一次救命処置）	急に倒れたり、窒息した人に対して、その場に居合わせた人が、救急隊や医師に引き継ぐまでの間に行う応急処置のこと。
ACLS（二次救命処置）	気管挿管、薬剤といった高度な心肺蘇生法を示すが、心停止時のみならず、重症不整脈、急性冠症候群、急性虚血性脳卒中の初期治療までを含む。
ICLS（医療従事者向け蘇生トレーニングコース）	突然の心停止に対する10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目的としたトレーニングコース。
DC（除細動器）	致死的な不整脈に対して、電気ショックを与えることで改善をはかるもの。
AED（自動体外式除細動器）	心室細動の際に機器が自動的に解析を行い、必要に応じて電氣的なショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器。
ペイン・コントロール	癌性疼痛などさまざまな鎮痛薬や補助薬、あるいは神経ブロックなどを用いて制御する医療。
インプラント	体内に埋植すること。
ブリッジ（橋義歯）	抜いた歯（欠損歯）を補うため、人工の歯を隣の歯を支えにする方法。
フルデンチャー（総義歯）	総入れ歯のこと。
プラセボ・プラシーボ（偽薬）	偽薬を処方しても、薬だと信じ込むことによって何らかの改善がみられるという治療効果の事をいう。
カテーテル	医療用に用いられる、柔らかい管のこと。血管や消化管、尿管、または胸腔、腹腔などに挿入し体液の排出や薬剤・造影剤などの点滴、注入等を行う。
ディスポ（ディスポーザブル）	使い捨ての医療器具のこと。
ドレッシング材	傷を保護するために巻く、あるいは覆うもの。包帯、ガーゼ、ポリウレタンフィルム、ハイドロポリマーなど多種にわたる。
パワーリハビリテーション	維持期・慢性期のリハビリテーションとして、主に機器を利用した筋カトレーニングを行うリハビリテーション技術。

その他の医療・看護用語

医療・看護用語	解説
キュア	治療のこと。
MT（ムンテラ）	病状説明のこと。
インフォームドコンセント	医師が患者に対して、治療の同意を得るために必要十分な説明をすること。
セカンドオピニオン	患者が自身の主治医以外の別の医師に、診断や治療法が適切か「第2の意見」を求めること。
インテーク	援助を求めて相談機関・施設を訪れた者に、ソーシャルワーカーなどが面接して、問題を聞き取ること。
アナムネーゼ・アナムネ	既往歴のこと。入院にあたって、患者の入院歴や病状を聞くこと。
サマリー	看護要約。また、転院する際に先方の病院に宛てて患者の状態を報告する
フェイスシート	個別援助におけるインテークにおいて取られる利用者の情報を記載する記録用紙のこと。
フローチャート	作業について処理手順や工程など一連の流れを表したもの。
アセスメント	対象が抱える問題点や優先度を判定し、看護ケアの方向性を明確化すること。
クリティカル・パス	治療や検査にあたってどのような処置を行うのか、その実施内容や順序を入力したスケジュール表のこと。
クリティカルケア	重度集中看護のこと。
カンファレンス	打ち合わせや会議のこと。
サーベイランス	感染症に対し、調査・監視すること。
オンコール	急患時の対応役として、待機すること。いつでも出勤養成に応えられるよう、連絡の取れる状態。
トリアージ	災害医療の現場で、限られた医療資源を最大限活用するため、負傷者を傷病の緊急性・重症度に応じて分類し、治療の優先順位を決定すること。
グリーフケア	身近な人との死別を経験し、悲嘆にくれる人のそばで悲しみから立ち直れるよう支援すること。
ボディメカニクス	力学的原理を活用した介護の方法。最小の労力で介護するため、疲労が少なく、腰痛防止にも繋がる。
ロコモティブシンドローム	骨・関節・筋肉など体を支えたり動かしたりする運動器の機能が低下し、要介護や寝たきりになる危険が高い状態。
メタボリックシンドローム	内臓脂肪の蓄積によりインスリンの働きが低下し、糖尿病や高脂血症や高血圧などの動脈硬化の危険因子が、一人に同時に重複して集中している状態。
ICU（集中治療室）	重篤な患者に対し、医師や看護師が24時間体制で高度な医療・看護を行うことを目的とした病院内の施設のこと。
CCU（冠疾患集中治療室）	心臓疾患の患者を専門に管理する。急性心筋梗塞や急性心不全など、急変する疾患が多いため、手術等すぐに対処できる体制がとられている。
NICU（新生児特定集中治療室）	何らかの疾患のある新生児を集中的に管理・治療するための部屋・部門のこと。
SUC（脳卒中治療室）	脳卒中ケアユニット。脳卒中急性期の患者に対し、専門の医療スタッフが治療とリハビリテーションを行う治療病棟のこと。
HCU（高度ケア室・ハイケアユニット）	ICUと一般病棟の中間に位置する病棟で、ICUから移されてきた患者を対象とした高度治療室。
1次救急	かぜによる高熱や家庭では処置できない切り傷といった症状を診察治療すること。初期救急。
2次救急	入院や手術を必要とする患者が対象となる救急対応。
3次救急	命に危険が及びような重症重篤患者への救急対応。

文書に記載されている略語

略語	意味	略語	意味
Hp	病院	F・Fr (フレンチ)	カテーテルのサイズを表す単位。
CL	診療所・医院	G (ゲージ)	注射針の外径や針の太さ
ユニット	病棟・単位	コメディカル	医師の指示のもとで業務を行う医療従事者
ER	救急救命室	Pt(クランケ)	患者
ウロ	泌尿器科	Dr.	医師
ギネ	産婦人科	Ns	看護師
QQ	救急	PT	理学療法士
ENT (エント)	退院	OT	作業療法士
n.p	異常(所見)なし	ST	言語聴覚士
Rp	処方	ET	ストーマケアの専門家
T	錠剤	SW	社会福祉士
Cap	カプセル	MSW	医療ソーシャルワーカー
P.O	経口薬	PSW	精神保健福祉士
V	バイアル	PHN	保健師
A	アンプル	DH	歯科衛生士
Suppo(サポ)	坐薬	CM	介護支援専門員
H (ハルン)	尿	Cw	介護士
kot (コート)	便	RD	管理栄養士
SP (スプーター)	痰	EMT	救急救命士

よく聞くけど難しい体の部位の名前

部位の名前(よみかた)	意味	部位の名前(よみかた)	意味
眼瞼 (がんけん)	まぶた	臍 (さい)	へそ
睫毛 (しょうもう)	まつげ	臀部 (でんぶ)	尻
耳介 (じかい)	耳の貝殻状の形の部分	手背 (しゅはい)	手の甲
耳朶 (じだ)	耳たぶ	手掌 (しゅしょう)	手のひら
口角 (こうかく)	唇の両脇の部分	足背 (そくはい)	足の甲
頸部 (けいぶ)	頭と胴をつなぐ部分。	踝部 (かぶ)	くるぶし
腋窩 (えきか)	脇	踵部 (しょうぶ)	かかと
上腕 (じょうわん)	二の腕	第1指	親指
前腕 (ぜんわん)	肘から手首までの部分	第2指	ひとさし指
大腿 (だいたい)	もも	第3指	中指
下腿 (かたい)	すね	第4指	薬指
鼠径 (そけい)	足の付け根	第5指	小指